

## 富士紀行(67) 宝を宝たらしめよう！

(H13/5/5 記)

下界（須走は未だに肌寒い！）には既に初夏（本日は二四節季の一つである立夏の由）来る。満面に水を張られた水田には、心細げに稲が規則正しく植えられている。今般帰省した鹿児島では未だその気配はない。気温の低い地域ほど田植えが早いようだ。

昨年のこの時期、館林に躑躅を見に行っただのを思い出す。須走周辺の躑躅の名所と言え、富士霊園であろう。桜も有名であるが躑躅もそれと同等若しくはそれ以上に有名である。50種、10万本以上の躑躅が所狭しと咲き誇る様は圧巻である。機会を見つけて躑躅狩りと洒落てみては如何。見頃は今月中旬か？

又、本日は須走浅間神社の春祭りである。生憎の肌寒であるが、それでも子ども達ははしゃぎ廻っていた。

富士学校に陸上自衛隊としては、名寄、岩手駐屯地に次いで3番目というレクリエーションセンターが一昨年（H11）10月1日オープンし、連日学校職員、学生そして家族の利用者で賑わい、また、多くの学校見学者からは感嘆の声が聞かれる。

富士学校の校風「明朗闊達和楽の間に進んで難局に当たる」から「富士和楽館」と命名、施設面積約4,000㎡（1F：2400㎡,2F：1600㎡）の一寸自衛隊らしからぬ(?)雰囲気の建物である。

- 温水25℃プール7コース（付帯設備としてシャワールーム）  
水中運動パネルを見ながら水中ウォーキング可能なコースあり。
- 各種のアスレチック機器を備えたトレーニングルーム  
各種筋トレ器具、ルームランナー、体脂肪率や活年齢測定可能な体力測定器材等完備
- 多目的運動室  
バイク、クライミングボード、ストレッチトレーナー、家族用の卓球台等
- エアロビクスエリア、週2回エアロビで汗を流す隊員・家族も多い。
- アーバンリラックス6種類を備えたリラクゼーションルーム、マッサージ可能
- 多目的ホール 各種教育訓練、音楽隊の合奏訓練場、各種会議等に利用されている
- 和室2室（8畳、10畳）  
華・茶道部が使用するほか、各種懇談会・会議等に利用されている。
- そして男女それぞれの浴室・サウナ・ジャグジーから構成されている。

このような近代的なトレーニング施設はそうざらにあるものではない。学校見学のコースになっているが、見学者が一様に驚嘆するのも頷けよう。

総工費は約16億円であり、1月の維持費は約180万円程度という。

年間利用者数は、約8万人であり、1日の利用者数は、平均的には、約300人である。このうち隊員家族はその1割の約30名である。最近ではダイエットに取り組む官舎の奥さん方が多いそうだ。隊員利用者の少ないお昼頃が奥さん方の交流の場とのこと。

隊員の利用者が多いのは、矢張り課業が終了した1730以降である。日中は、零細時間にトレーニングを心掛ける一部の者や休暇・代休の隊員が主である。先般土曜日の午後霧雨が煙っていたので和楽館に出かけたが、隊員等が多数おり吃驚した次第。天気の良い日などは利用者が急増するという。サウナで、階級・年齢を問わない裸の付き合いをするのも一興だ。

一日の利用者が300人前後というのはやや少ないようでもあるが、利用者の大部分が課業外であることを考えると多いといっても良いのではなかろうか。朝は早くから間稽古に精だし、課業後にはトレーニングジムで汗を流す隊員が多いというのは健全そのものいうことなのだろう。体を鍛えるのは自衛官の使命・責務ではあるが、それでもよく運動するものだ。

この施設を常時隊員4名の臨時勤務と役務1名で管理運営している。従って、使用に当たっては「使用者自ら全責任を負う事」が大原則だ。現在までのところ、隊員家族を問わず自律的に使用しており、特に使用上の規制が必要とはなっていない。

残念ながら、陸上自衛隊には、専任のトレーナーを配置する余力は現在のところない。従って、普通科部の体育班が、各中隊等の体育係に取り扱い操作やトレーニング要領等の普及教育をしている他、入校学生に対しては、入校当初に説明している。

隊員・家族の本施設の更なる活用を切望するものである。体力増強も良し、ダイエットのためのエアロビ運動に利用しても、心身のリラックスのためにももっと利用されて良いはずだ。宝はもっともっと活用してこそ本物の宝になるのである。